

1液溶剤形反応硬化形エポキシシーラー

DIA

ダイヤ ガンコシーラー

F☆☆☆☆

■ 特 長

- 含浸固着力に優れた1液溶剤形エポキシシーラーです。
- 弾性系仕上塗材、溶剤系2液形塗料を含め、様々な上塗材の下塗りとして使用することができます。
- 浸透性に優れており、もろくて吸い込みの大きいケイカル板から、硬くて緻密な押出成形セメント板まで、幅広い下地に適用できます。
- 弾性系仕上塗材を含めた各種旧塗膜との密着性に優れ、改修工事にも最適です。

■ 用 途

荷 姿:15kg缶

新築から改修まで広範囲な用途に対応できます。

1. 新築下地

コンクリート、モルタル、PC板、GRC板、押出成形セメント板、ケイカル板など

2. 改修旧塗膜

弾性系仕上材、吹付タイル、スタッコ、リシン、ウレタンエナメルなど

※フッ素エナメル及びアクリルシリコンエナメル面の改修にはダイヤセランプライマーSをご使用下さい。

※下地の状況によっては縮みを生じる恐れがありますので事前に試し塗りを行って下さい。

3. 適合上塗材

弾性仕上塗材(複層・単層)、各種硬質仕上塗材、各種塗料

(ダイヤスーパーダンセイシリーズは適用できません。)

ダイヤガンコシーラー

施工工程

●新築・改修一般施工

工程	材料名	調合割合	所要量 *1	塗回数	間隔時間 *2		施工用具	
					工程内	工程間		
1	下地調整							
2	下塗り	ダイヤガンコシーラー 無希釈	15kg	0.1~0.2kg / m ² 75~150m ² /缶	1	—	2時間 以上	刷毛、 ローラー、 エアレス

*1 所要量は1回塗りの場合に標準の数値であり、下地の種類や状況により増減します。

*2 間隔時間は湿度23℃、湿度50%の場合であり、環境条件によって多少の差異があります。

塗り替えの場合の施工

- ①旧塗膜の浮きや剥離部分及びその周辺の付着力の弱い塗膜を充分除去して下さい。
- ②旧塗膜やモルタル素地、打ち放しコンクリートの表面の著しい脆弱層、チョーキング、汚れなどは高圧水洗浄などで除去して下さい。
- ③油污れ、かび、苔その他の汚れも取り除いておいて下さい。
- ④コンクリートの欠け・鉄筋発錆による損傷、モルタルの浮き・剥離、躯体のひび割れなどは、あらかじめ補修しておく必要があります。これらの補修には当社の「セメンシャス工法」が適しています。

注意事項

【塗装面の調整（新設）】

- ①素地に付着している塵、汚泥、油脂類、レイタンス等を完全に除去して下さい。
- ②セメント質下地は、表面の含水率10%以下（pH10以下）になるまで放置して下さい。下地モルタルは十分に乾燥させて下さい。モルタルの乾燥期間は、夏期で1週間、冬期で2週間以上必要です。コンクリート下地は、夏期で2週間、冬期で3週間以上乾燥が必要です。
- ③雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。
- ④PCパネル、現場打ちコンクリートの場合
 - 1)豆板、木コン、破損箇所、不陸などは、セメントフィラー、セメンシャス#2000、セメンシャス#2500、リマモル#70等の下地調整材を使用し、補修して平滑にして下さい。
 - 2)表面が緻密でレイタンス層がある場合は、レイタンスを除去し、ダイヤガンコシーラー又は、ダイヤシーラーエポをご使用下さい。
- ⑤ALCパネルの場合
 - ダイヤカチオンフィラーを塗布して下さい。

【塗装面の調整（新設・改修共通）】

- ①屋上防水、目地排水管など水の浸透が予想される箇所については、事前に十数点検し適切な処置をして下さい。
- ②使用シーリング材の種類により塗膜のひび割れ、剥離、ブリード等の異常を生じる場合があります。あらかじめ塗装仕様を確認して下さい。

【塗装面の調整（改修）】

- ①各現場の改修工事仕様に基づき劣化部分の補修や既存塗膜の処理（ケレン、清掃、高圧水洗浄）などを行って下さい。
- ②脆弱層が厚い場合には、取り除いてから施工して下さい。
- ③チョーキングは、サンダー、ワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して下さい。
- ④既存塗膜の種類によりリフティング（シフ）を生じることがありますので、あらかじめ目立たない箇所を確認して下さい。

【材料の保管・管理】

- ①開封した材料は必ず密封し、直射日光や雨露を避けて保管して下さい。
- ②材料の保管は凍結や温度上昇による変質を避けるため、気温5~35℃で、密封のまま直射日光を避け、屋内に貯蔵して下さい。長時間貯蔵したものは十分攪拌し、変質の有無を確認して下さい。
- ③下記の製品は危険物ですので、火気や換気に十分注意して下さい。
ダイヤガンコシーラー
- ④硬化剤は湿気で硬化しますので、使用後は密栓して保管して下さい。

【施工】

- ①気温5℃以下、降雨、降雪、強風下および湿度85%以上の場合、または予想される場合には施工を避けて下さい。また作業後に、降雨、降雪の恐れがある時は雨（雪）養生をして下さい。
- ②材料は使用前に十分攪拌し、均一にしてから使用して下さい。配合割合を誤りますと、成膜不良や本来の塗膜性能が発現できませんので注意して下さい。
- ③材料は付着乾燥しますと取れませんが、完全に養生をして下さい。塗付面周辺の養生を完全に行ない、施工時建物の周辺に飛散しないように注意して下さい。また、塗付後は、速やかに養生紙や養生テープを取り除き清掃して下さい。乾燥後、養生テープを取り除く場合はカッターを入れて下さい。そのまま取り除きますと斑が残ります。

- ④乾燥時間は、温度、湿度、および、風等により差異を生じます。
- ⑤コンプレッサーを使用する場合は必要十分な能力以上のものをご使用下さい。
- ⑥下地は十分に乾燥してから施工して下さい。乾燥不十分の場合、色ムラ、剥離等の生じる原因となります。
- ⑦施工にあたっては、同一方法で、入り隅、出隅等見切りの良いところまで仕上げして下さい。同一壁面途中での塗り継ぎは色違いやムラの原因になります。
- ⑧施工後24時間以内に降雨、結露等があった場合、水分の影響で白化や色ムラが発生し、壁面に残る場合があります。
- ⑨本施工に入る前に試験塗りをし、施工のタイミング、粘度、塗布量などをチェックし、仕上がりがムラにならないよう確認して下さい。
- ⑩常に結露が発生する地域・時期での施工は避けて下さい。
- ⑪安全衛生上の注意事項については、容器の表示も合わせてご参照下さい。
- ⑫一度に厚く塗ると色分けや発泡が生じることがあるため、間隔時間を守り、規定回数以上に分けて塗布して下さい。
- ⑬塗装下地の差によって、塗布量が変わる場合があります。
- ⑭フッ素や無機系などの難接着塗膜処理がされている下地については、付着性が十分に発揮されないおそれがありますので、ご使用の場合は最寄りの営業所へご相談下さい。
- ⑮可使用時間及び塗装間隔は厳守して下さい。層間密着性の低下の原因となります。
- ⑯使用した器具類は直ちに洗浄して下さい。放置しますと硬化して洗浄することが難しくなります。
- ⑰乾燥時間は、温度、湿度および、風等により差異が生じます。

【安全衛生上の注意】

- ①取扱いは、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク、保護メガネ、保護手袋を着用して下さい。
- ②取扱後は、手洗い及びうがいを十分に行って下さい。
- ③子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ④作業中・作業後は十分換気を行って下さい。
- ⑤廃塗材、廃容器、洗浄水等は、産業廃棄物処理業者に委託して処理して下さい。
- ⑥目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑦誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ⑧中身を使い切ってから廃棄して下さい。
- ⑨皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
- ⑩臭い、蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。

【その他】

- ①その他、詳しくは最寄りの各営業所へお問い合わせ下さい。
- ②施工に際し、施工・管理上の詳細な注意点については仕様書等をご確認下さい。
- ③施工に際し、安全衛生上の詳細な注意点については安全データシート（SDS）をご確認下さい。

製品・工法に関するお問い合わせはホームページのブランドサイト <https://www.dia-dyflex.jp/> にてご確認のうえ各地域のオフィスまでお願い申し上げます。

2023年4月1日よりシーカグループの株式会社ダイフレックスは日本シーカ株式会社に統合され、新たに **シーカ・ジャパン株式会社** としてスタートいたしました。

(23.11月現在) 23.11.100 SJ